

文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.52



現代学生による鷗外再読の試み

鼠坂に仄めく戦争の影と薬壇の蓋

島村 輝（フェリス女学院大学教授）

「鼠坂」の「怪談」としての皮を脱がせる

文京区の住宅街に「鼠坂」という奇妙な名の坂がある。森鷗外が一九一二年に発表した短篇「鼠坂」は、まさにこの坂を舞台に、日露戦争後の一夜の出来事を描いた怪異な作品である。とはいえ、それはただの「怪談」ではない。

この小説を、現代の学生たちはどのように読み取ってくれるだろうか。私は勤務するフェリス女学院大学の日本文学専門ゼミで、この作品を採り上げた。二回にわたる発表で、学生たちは指導する私を驚かせるほど、この作品に潜む倫理的・歴史的な深層を照らし出す読みを示してきた。その読みの鋭さが、私自身の視座をも更新させる契機となったことを、まず記しておきたい。本稿ではその骨子を紹介し、読者と共有したいと思う。

作品の筋はいたって単純だ。日露戦争後に財をなした男・深淵が、自宅にかつての同僚である新聞記者・小川と通訳・平山を招き、饗応の末、戦地で小川が犯した過去の殺人——強姦とその口封じによる加害行為——を暴露する。酒に酔った小川は、その夜不審な死を遂げる。新聞には「脳溢血症」として処理されるが、作中の雰囲気はあたかも怨霊の仕業のようでもある。鷗外らしく筆致は沈着で、直接的な断罪や情緒過多な描写はない。しかし、だからこそ逆に、この作品は一読しただけでは見逃してしまう「毒」を孕んでいる。ゼミでの第一回の発表では、この「毒」の正体を、医学的・薬理的な視点から解きほぐす試みがなされた。

「脳溢血症」の診断をめぐって

物語の末尾、小川の死因は「脳溢血症」と報じられる。学生たちはここに注目し、高血圧症を誘発する要因として「飲酒」「疲労」、さらには「心理的動揺」が重なった可能性を指摘した。まさに劇中、小川は酩酊と不快感に苦しみながら、床に就く。しかし第二回の発表では、死因を「自然死」とみなすにはあま

りに状況が整いすぎているのではないかという新たな視点が加わる。つまり——これは事故死ではなく、周到に準備された「演出」である、という仮説だ。

根拠の一つは、「女中が持ってきた煙酒」である。学生たちは、そこに高血圧を一時的に著しく悪化させる薬物が混入されていた可能性に着目した。さらに調査の結果、その候補として挙げられたのが「コカイン」である。当時の薬学的知識に照らすと、コカインには以下の特徴がある……中枢神経を強く刺激し、一時的に血圧と心拍数を上昇させ、過剰摂取時には脳卒中や不整脈、呼吸障害、ショック死を引き起こす。またコカインは水には溶けにくいのが、アルコールには容易に溶解する性質を持つ。ゆえに煙酒に混入することで、服薬を気づかれずに遂行することが可能となる。

ここでさらに興味深いのは、作中の主人・深淵が「横浜から移ってきた株式業の男」とあるという点である。学生たちは、鷗外の活躍とほぼ同時代の『横浜港外国貿易年報』（一九二三年）を調べ、そこにコカイン（医薬用アルカロイド）の輸入記録が存在することを突き止めた。アメリカでは一九二二年まではコカインが合法であり、日本にも薬用・医療用として一定の需要があった。この文脈を踏まえると、深淵という男が、新築の洋館で饗応の宴を開き、女中に煙酒を運ばせ、その中に密かに薬物を混入するという構図が、急に冷ややかな現実味を帯びてくるのである。

戦場の記憶と「顔」の呪縛

しかし小川は、なぜ死ななければならなかったのか。彼が満州の一村で犯した暴力——家屋の炕（※かまど）の魔熱を寝台の下に通して寝台を暖める設備に隠れていた若い娘を強姦し、その「顔」を見られたことへの恐怖から殺害に及んだ——という語りには、まさに「顔の記憶が深く関与している。物語の終盤、小川の寝室に浮かび上がる幽霊」は、顔が見え

展示報告

コレクション展

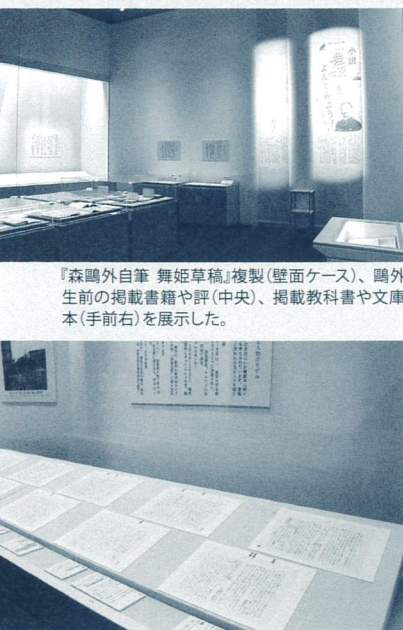
「小説『舞姫』を

よんでみよう！

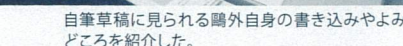
2025年7月4日（金）～9月30日（火）

本展では、鷗外の小説『舞姫』の自筆草稿（複製）を展示するとともに、『舞姫』創作の背景、掲載書籍、当時の反応や翻訳など、『舞姫』に伴う鷗外生前の様々な動きを館蔵資料により紹介しました。

本展は、二章立てで構成しました。一章は「鷗外の手書きで『舞姫』をよもう」と題し、『森鷗外自筆 舞姫草稿（複製）（跡見学園女子大学、令和4年刊）の綴じを解いた上で28枚からなる草稿をケース内に並べて展示しました。実物に忠実な複製を、明るい照明のもとでじっくりご覧いただくことができました。そのそばには、顕著な加除や修正の形跡、初出時の語句との異同など、草稿に見られる書き込みやよみどころを抜粋して示しました。地図や写真とともに物語の世界をイメージしつつ、活字とは異なる、鷗外の端正な手書き文字を追いつつ、発表直前の『舞姫』をよんでいただく機会となりました。



『森鷗外自筆 舞姫草稿』複製（壁面ケース）、鷗外生前の掲載書籍や評（中央）、掲載教科書や文庫本（手前右）を展示した。



自筆草稿に見られる鷗外自身の書き込みやよみどころを紹介した。

二章は『舞姫』について知ろう！と題し、『舞姫』発表当時や鷗外生前の状況を振り返りました。鷗外自身のドイツ留学に関する日記や写真、留学の経験を素材に執筆された他の2作品「文づかひ」「うたかたの記」の初出誌を展示しました。小説『舞姫』は、雑誌「国民之友」（明治23年）に発表後、鷗外生前に5度書籍に掲載されます。展示では、掲載のたびに鷗外が改稿したことも紹介しました。発表までもなく、石橋忍月と鷗外の間には「舞姫論争」や、発表当時の様々な反応については、現代の読者にも通じるものがあるためか、来場者が熱心に読む様子が見られました。鷗外生前、『舞姫』は英・露・独の各語に翻訳されています。中でも二葉亭四迷（ロシア語）や小池堅治（ドイツ語）と鷗外との、翻訳を巡る交流も紹介しました。

高等学校の国語教科書や文庫本などで現在も読み継がれる『舞姫』ですが、本展示では、草稿のみならず、掲載を重ねてもなお細部にいたるまで手直しを続けるなど、鷗外が発表から長きにわたり作品と向き合い続けた様子をご覧いただくことができます。最後にになりましたが、本展を開催するにあたりご協力を賜りました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

○「二章展示ガイド」を発行しました。

展示キャプションや関連年譜を収録。B5判 12頁 税込300円

○展示関連講演会を実施しました。

「明治20年代の青年太田豊太郎——作品『舞姫』が問いかけてくるもの——」

講師：須田喜代次氏

日時：8月30日（土）14時～15時30分

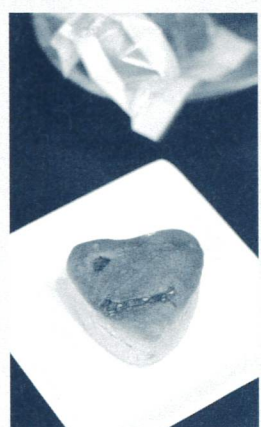


カフェ便り



モリキネカフェ夏の看板メニューのフロート。今年は「黒」「赤」「金」のドイツ国旗をイメージした3色のフロートをご用意しました。それぞれコーヒ、いちごソーダ、マンゴーソーダにアイスクリームをトッピング、イチゴとマンゴーのソーダには可愛らしいチェリーを添えました。連日猛暑が続いたこの夏、カラフルで冷たいデザートを楽しんでいただきました。

また、コレクション展「小説『舞姫』をよんでみよう！」に合わせ、文京区ゆかりの文人にちなんだお菓子「文人銘菓」の一つ、白山の洋菓子店パティスリーシモンの「エリス」も販売いたしました。ピスタチオとフランボワーズ、異なる2つのテイストで若い2人の恋を表現したというハート形の焼き菓子は、モリキネカフェ自慢のハンドドリッブのコーヒやドイツの紅茶ブランド「ロネフェルト」のお茶とも相性抜群。「エリス」はコレクション展終了後もパティスリーシモンでお求めいただけます。当館にいらした際には、ぜひ同店まで足を延ばしてみてください。



ず、しかし唇から血を流す女であった。鷗外はそこに「贖いの顔」としてのイメージを執拗に重ねている。

小川の死を導いたこの計画の筋書きにおいて、学生たちは「幽霊の実在性に注目した。彼が見たのは幻覚ではなく、意図的に演出された「顔のない亡霊」であり、その正体は「女中」に他ならないという推理である。女中は素朴な田舎顔の若い女性として描かれ、満州で殺された娘を思わせる容姿を備えている。しかも、彼女が案内する先の客間には、かつての「炕」の構造が再現され、幽霊の出現は電灯の消失という物理的な演出の上に成り立っていた。これは周到に組まれた「復讐の舞台装置」であり、小川の心身を衰弱させた末に、ショック死へと誘導したのだ。〈顔〉を見られたことへの恐怖で他者を殺した男が、今度は〈顔〉の見えぬ「亡霊」によって裁かれる——この反転構造に、鷗外の倫理観が鋭く潜んでいるように思われる。

炕の構造を模した客間、軟らかな布団、立春大吉の紅唐紙——それはすべて小川に「かつての犯行現場」を幻視させる装置として用意されている。これが偶然であるはずはない。かくして、物語は奇譚の皮を脱ぎ、深淵らによる道德的復讐劇の仮面を被った口封じの計画殺人劇へと転じるのである。

「鼠坂」から史伝へ

この作品の発表を契機に鷗外の現代小説は減少していき、大正期以後は体制の倫理と個人の内面の葛藤を描く歴史小説や、「洪江抽斎」などの史伝へと向かっていく。鼠しか通れぬ狭き坂——それが「鼠坂」の名の由来だという。しかし、そうした「狭間」に潜んでいるのは鼠ではなく、人間の顔をしながら「毒」にまみれた怪物たちである。そして鷗外は、もはやそれを「今こ」で描くには忍びなかったのかもしれない。学生たちの瑞々しい読解を通じて、私はそのことをあらためて思い知らされたのだった。

島村 輝
しまむら・てる

1957年生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得。文学修士。フェリス女学院大学文学部日本語日本文学科教授。専門は日本近代文学、プロレタリア文学。小林多喜二の「蟹工船」エッセーコンテスト選考委員長などを歴任。2022年3月より24年3月まで、日本近代文学会代表理事。著書に『臨界の近代日本文学』（世織書房）、『小林多喜二の代表作を読み直す（読み直し文学講座）』（かもがわ出版）などがある。



ショップ便り

文京区・熊本市・新宿区は、それぞれの自治体間で共通する文化および歴史の資産を背景に、観光、広報等の各分野において相互に連携を図ることを目的とした協定を結んでいます。2025年は締結10年の節目にあたります。当館では締結10年を記念し、熊本の工芸品を集めた「くまもと工芸品祭」を開催します。当館エントランスに、肥後象がん、肥後こまをはじめとした玩具、陶磁器や竹細工などそれぞれの職人の技が光る、熊本を代表する工芸品が並びます。工芸品だけでなく、熊本と文京区、鷗外とのかかわりにも触れながら、熊本の魅力をご紹介します。たくさんのご来館をお待ちしています。



写真提供：熊本市くまもと工芸会館

○交流都市マルクト

「くまもと工芸品祭」※工芸品の種類は変更になる場合があります

期間 2025年

10月13日（月・祝）～11月30日（日）

場所 エントランス

展示のお知らせ

帝室博物館総長
兼 図書頭
森 林 太 郎



大礼服
森鷗外記念館(津和野町)蔵
宮内高等官用の大礼服。
宮中の儀礼で着用したもの。

宮内庁宮内公文書館・文京区立森鷗外記念館共催
特別展

「鷗外、最後の4年間」

— 帝室博物館総長兼図書頭・森林太郎 —

明治・大正の文学者として知られる森鷗外(本名・森林太郎、1862〜1922)は、軍医の最高位である陸軍軍医総監まで務め、大正5(1916)年4月に退任します。ところが、退任から時を経ずして大正6(1917)年12月、鷗外は宮内省の帝室博物館総長兼図書頭に任命されました。

帝室博物館と図書寮の二つの組織の責任者となった鷗外は、上野の東京帝室博物館(現・東京国立博物館)と当時は三年町(現・千代田区霞が関)にあった宮内省図書寮に勤務しました。鷗外は、帝室博物館総長として展示品の時代別陳列、研究紀要の発刊など、同館の運営改善に精力的に取り組みます。また、毎年秋には正倉院の曝涼(虫干し)にも立ち会いました。同時に図書頭としては、『皇統譜登録』や『天皇皇族実録』の編修、図書寮で保管される古文書や公文書類の管理などに努めました。

本展では、帝室博物館総長兼図書頭就任から大正11(1922)年7月に在任のまま没するまでの足跡を、宮内庁宮内公文書館が所蔵する宮内省の公文書類と、文京区立森鷗外記念館が所蔵する原稿・書簡・遺品などから紹介します。官儀として文学者として生涯を歩んだ鷗外の最後の4年間をご覧ください。



御大礼恩賜銀杯
文京区立森鷗外記念館蔵
大正天皇即位の大礼に
列席した記念に贈ったもの。

会期 ● 2025年 10月11日(土) — 2026年 1月12日(月・祝)
【会期中の休館日】10月25日(火)、12月22日(月)・23日(火)、12月29日(月)・1月3日(土)
会場 ● 文京区立森鷗外記念館 展示室1、2
開館時間 ● 10時〜18時(最終入館は17時30分)
観覧料 ● 一般600円(20名以上の団体・480円)
※中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印)、友の会会員証ご提示で2割引
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。
主催 ● 宮内庁宮内公文書館・文京区立森鷗外記念館
出品協力 ● 森鷗外記念館(津和野町)、東京大学総合図書館

展示会場から

図書頭森林太郎より帝室博物館総長森林太郎宛て照会の回答

毛利拓臣(宮内庁宮内公文書館公文書調査室)

ここに一件の公文書(大正七年七月一七日付)がある。差出人は森林太郎で宛先も森林太郎。もちろん森鷗外のことである。鷗外より鷗外に宛てられたなんとも奇異な資料である。この資料を手掛かりに、帝室博物館総長兼図書頭、なかでも図書頭鷗外の姿に迫ってみよう。

大正六年二月二五日、鷗外は宮内省帝室博物館総長兼図書頭に任じられ、古文書の管理や公文書類の編纂、管理などを担う図書寮の責任者となった。

鷗外の図書頭在任中、その後の公文書類の編纂・保管の基礎となる規程の改正が行われた。第一に公文書類の保存期限が変更された(「公文書類編纂保管規程」の改正、第二に件名目録等の作成を規定した「公文書類編纂保管規程細則」の改正、そして第三に「公文書類保存期限ノ区別及編纂簿冊名」の改正である。

この「公文書類保存期限ノ区別及編纂簿冊名」の改正に係る資料こそ、冒頭で紹介した「奇異」な資料のことである。写真では、帝室博物館総長鷗外が、図書頭鷗外の照会に応じて、同館の文書管理について回答しているのが見える。図書頭鷗外は、規程、細則の改正を受け、公文書類の保存期限の区別・分類、編纂簿冊名の改正に取り組む。そこで鷗外は意見聴取のため、大正七年三月から順次、省内の各局局に対し照会を行った。その後、各局局で永年・三十年・十年保存に分類すべき事項が定められ、それらに対応する簿冊名が決められた。これが今日、宮内公文書館で保存・公開される「〇〇録」と標題の付けられた茶表紙の簿冊を編纂する根拠規程となっている(本号表紙を参照)。

鷗外は、宮内省の二つの組織の責任者として、それぞれの業務にあたり、地道な執務遂行に注力した。そこに、華々しい文学者鷗外とは異なる官僚としての鷗外の横顔を見ることがは難しくない。

※本資料は特別展「鷗外、最後の4年間」— 帝室博物館総長兼図書頭・森林太郎」に出品します。

関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連講演会を予定しております。会場はいずれも当館2階講座室(定員50名)です。申込方法は7頁をご覧ください。

講演会 1

「帝室博物館総長森鷗外と正倉院」

講師 田良島哲氏
(東京文化財研究所客員研究員)
日時 10月25日(土) 14時〜15時30分
参加費 無料(参加費と本展の観覧券)
申込締切 10月14日(火) 必着

講演会 2

「歴史を記録する鷗外」

講師 村上祐紀氏(拓殖大学教授)
日時 11月22日(土) 14時〜15時30分
参加費 無料(参加費と本展の観覧券)
申込締切 11月7日(金) 必着

講演会 3

「二学徒としての帝室博物館総長兼図書頭・鷗外」

講師 須田喜代次氏
(大妻女子大学名誉教授・森鷗外記念館(津和野町)館長)
日時 12月13日(土) 14時〜15時30分
参加費 無料(参加費と本展の観覧券)
申込締切 11月28日(金) 必着

スライドトーク

宮内庁宮内公文書館の展示担当者がスライドトークを行います。申込不要、会場はいずれも当館2階講座室です。直接会場にお越しください(開場12時45分)。

「森鷗外と外崎覚」

講師 毛利拓臣氏
(宮内庁宮内公文書館研究職)
日時 11月3日(月・祝)
13時〜13時45分
参加費 無料(当日の観覧券が必要)

「森鷗外と旧津和野藩」

講師 篠崎佑太氏
(宮内庁宮内公文書館研究職)
日時 12月6日(土)
13時〜13時45分
参加費 無料(当日の観覧券が必要)

ギャラリートーク

展示室にて展示担当者が展示解説を行います。申込不要、当日の展示観覧券が必要です。

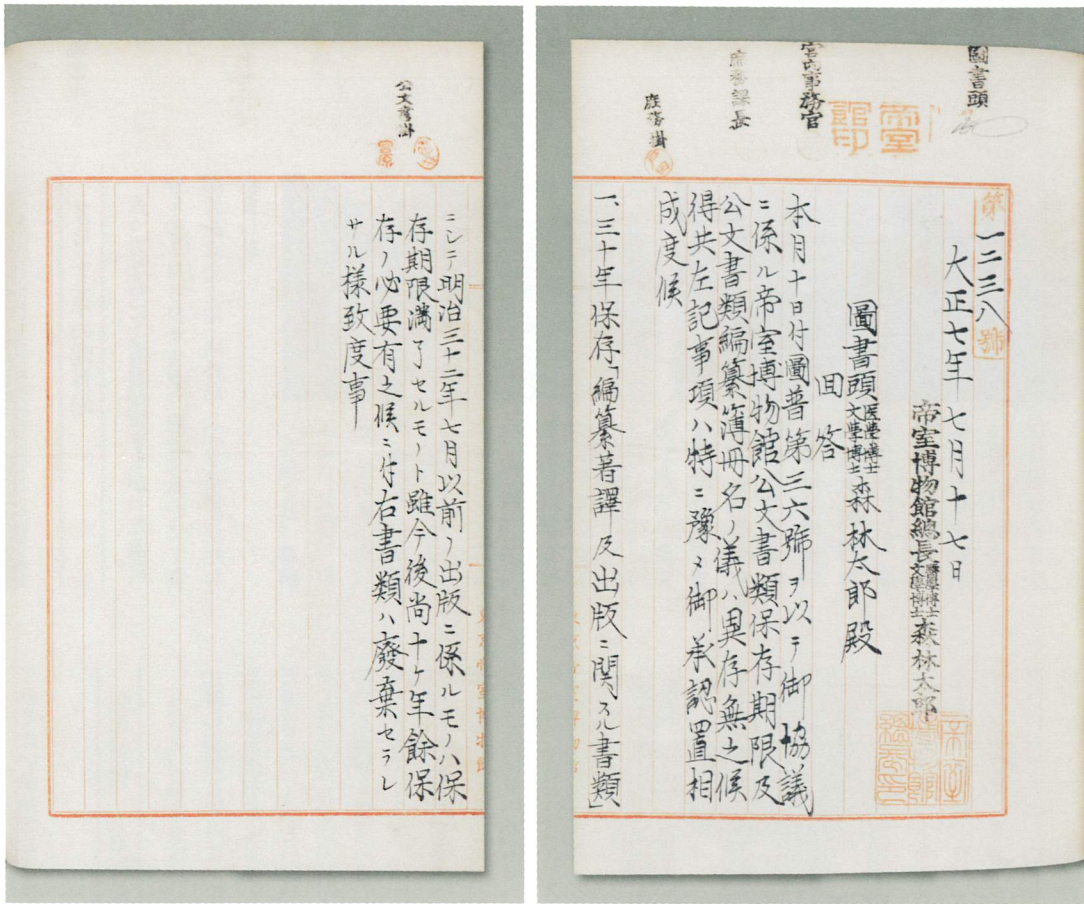
日時 10月29日、11月12日、
2026年1月7日
いずれも水曜14時〜
(30分程度)

記念日イベント

開館日を記念して、当日は展覧会を観覧された方に、オリジナルポストカードをプレゼントします。

日時 11月1日(土) 10時〜18時
(最終入館17時30分)

「図書頭鷗外より帝室博物館総長兼図書頭への回答」
(宮内庁宮内公文書館蔵)



活動報告

2025年の鷗外忌

真つ青な空に入道雲が湧き上がった盛夏、今年の7月9日も東京三鷹の禪林寺にて森鷗外記念会主催「鷗外忌・記念集会」が行われました。



午後2時、墓前に集合し説経、献花、その後は集會座談会という流れです。毎年参加される方々に加え、初参加の方、年齢も国籍も越えた参加者は合わせて30名程。梵鐘が鳴る夕刻まで集會は続きました。座談会では、鷗外との出会いやご自身の体験談など話題は其々でしたが、幾つもの思いが今年の104回忌へ繋がり、今後受け継がれてゆくことと思えます。矢のように過ぎ去ってしまう日々の中、「森林太郎墓」と刻まれた墓前に手を合わせ、これから何ができるのか、改めて考える機会にもなりました。

当館では鷗外忌当日は通常より1時間早い9時から開館し、展示をご覧の方にはオリジナルしおりをプレゼント、また7月中旬に鷗外「遺言書」の原資料を特別公開しました。

た。来年の7月9日は鷗外の足跡をたどってみてはいかがでしょうか。

毎年恒例、文京区民無料開館日

8月2日は文京区民無料観覧日でした。10時の開館と同時に、夏休み中の子どもたちや家族連れなど多くの方々にご来館いただきました。当日は20時まで開館時間を延長したため、昼間の日差しを避けて夕方以降のご来館も目立ちました。初めてご来館の方も見受けられ、分かりやすいと好評の映像ルームは終日満席の状態でした。無料観覧日をきっかけに、二度三度とお越しいただければ幸いです。



また、当日モリキネカフェでは「ドイツワインを楽しむタベ」と題し、昨年に引き続き16時からの限定メニューとしてドイツワイン飲み比べセットを販売しました。通常の赤・白ワインに、ロゼ・スパークリング・オレンジワインを加えた5種より2杯をお選びいただきました。ワインの芳醇な香りがエントランスまで届く贅沢な時間となりました。来年はどんなワインが並ぶか、楽しみにお待ちください。

6月から8月にかけて

鷗外講座基礎編(全5回)を開催

鷗外の生涯や作品について学ぶ連続講座「鷗外講座」は、基礎編と応用編を隔年で実



影山亮氏



倉本幸弘氏

施しています。基礎編にあたる今年度は新たな試みとして、日本近代文学史を基礎的に学びながら、その中の鷗外の存在について知る「基礎編Ⅰ」、鷗外の生涯や家族との関りを学び作品理解をさらに深める「基礎編Ⅱ」の二部構成とし、それぞれ帝京大学文学部日本文化学科講師の影山亮氏、森鷗外記念会常任理事の倉本幸弘氏にご担当いただきました。

「基礎編Ⅰ」では、明治期に新聞や雑誌などのメディアが発展し出版や流通が大きく変化する中で文学がどう生まれ読者を掘り起こしたのか、また社会や法と文学の影響関係といった時代背景を整理しながら、鷗外や同時代の文学者について学びました。参加者からはⅠとⅡを合わせて学んだことで、「時代を横断的に見ていく」という試みが分かりやすく楽しかった」「これまでにない視点から考えることでイメージがはっきりした」といった感想が寄せられました。

当館参加賞のステッカー(全3種)



コンプリート賞のブックカバー

訪問の順番や各館への交通手段など工夫を凝らしながら楽しんでいただけたようです。夏休み期間中、暑い時期の開催ではありましたが、多くの方にご参加いただきました。

スタンプリー

「五館文学めぐり」を開催

7月19日から8月31日まで、文京・台東・北・荒川の四区が連携して、当館・一葉記念館(台東区)・池波正太郎記念文庫(台東区)・田端文士村記念館(北区)・吉村昭記念文学館(荒川区)をめぐるスタンプリーを開催しました。隣接する四区に点在する五つの文学館は、距離的な近さだけでなく、それぞれが一人の文学者を顕彰しているという共通点もあります。五館すべてのスタンプを押印した方には、先着250名様限定で、事業名が記されたオリジナルのブックカバーを進呈しました。また、各館が独自に参加賞を設けており、当館ではオリジナルステッカー3種から1種をお選びいただき進呈しました。

これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

10月25日(土) 14:00 ~ 15:30
展示関連講演会
「皇室博物館総長森鷗外と正倉院」

講師：田良島哲氏(東京文化財研究所客員研究員)
会場：講座室 定員：50名 料金：無料 ※本展観覧券(半券可)が必要
申込締切：10月14日(火)必着

11月3日(月・祝) 13:00 ~ (45分程度)
特別展スライドトーク「森鷗外と外崎覚」◎

講師：毛利拓臣氏(宮内庁宮内公文書館研究職)
会場：講座室 料金：無料 ※当日の本展観覧券が必要
※ 申込不要、直接講座室へお越しください(開場12:45)。

11月22日(土) 14:00 ~ 15:30
展示関連講演会「歴史を記録する鷗外」

講師：村上祐紀氏(拓殖大学教授)
会場：講座室 定員：50名 料金：無料 ※本展観覧券(半券可)が必要
申込締切：11月7日(金)必着

12月6日(土) 13:00 ~ (45分程度)
特別展スライドトーク「森鷗外と旧津和野藩」◎

講師：篠崎佑太氏(宮内庁宮内公文書館研究職)
会場：講座室 料金：無料 ※当日の本展観覧券が必要
※ 申込不要、直接講座室へお越しください(開場12:45)。

12月7日(日) 11:00 / 13:30 (各回30分程度)
クリスマスコンサート ◎

演奏：MOG室内合奏団 会場：エントランス 料金：無料
鷗外が留学したドイツにゆかりのあるクラシック音楽を、弦楽四重奏でお楽しみください。

1月18日(日) 15:30 ~ 17:20(休憩あり)
鷗外誕生日記念朗読会
「『独逸日記』と並べて読む『普請中』の東京」

朗読：佐々木望氏(声優) 解説：美留町義雄氏(大東文化大学教授)
会場：不忍通りふれあい館 ホール 定員：100名
料金：3,800円(事前支払制) 申込締切：11月21日(金)必着
鷗外の小説『普請中』は、かつてドイツで別れた恋人たちが東京で再会する物語です。この物語を、佐々木氏の朗読と美留町氏の解説とともに、鷗外の留学体験を交えて読み直します。
協力：島根県立石見美術館、島根県立いわみ芸術劇場
※席は選べません(抽選)。
※お客様のご都合によってキャンセルした場合、参加費の返金対応はいたしかねます。

10月23日(木) 10:00 ~ 18:00
ふみの日イベント
「ポストカードもう1枚プレゼント」◎

会場：ミュージアムショップ
ミュージアムショップでポストカード購入の方に、もう1枚プレゼント。

11月1日(土) 10:00 ~ 17:30(最終入館)
開館記念日行事 ◎
展覧会を観覧された方に、オリジナルポストカードをプレゼントします。

11月8日(土) 14:00 ~ 15:30
開館記念講演会
「学芸の自由を護るために——知友・岩村透と森鷗外」
講師：今橋映子氏(東京大学大学院教授) 会場：講座室
定員：50名 料金：1,000円 申込締切：10月27日(月)必着
稀な知性と志をもった美術批評家・岩村透と、鷗外の多彩な関係性から、共有する思想を浮かび上がらせてみます。

11月23日(日・祝) 11:00 ~ 17:00
文の京ワークショップ
「なつかしの芋版でカードづくり」◎
会場：エントランス 料金：無料
なつかしい「芋版」を押してクリスマスカードや年賀状をつくりましょう!ご家族やお友達と一緒にご参加ください。
※年賀状やカードは各自ご持参ください。

12月6日(土)、7日(日) 10:30 ~ 15:00
鷗外マルクト「ドイツクリスマスマーケット&津和野マルシェ」◎
会場：当館前、エントランス
鷗外ゆかりの地である、ドイツと津和野の名産品を集めたマーケットを開催します。

12月13日(土) 14:00 ~ 15:30
展示関連講演会
「一学徒としての皇室博物館総長・鷗外」
講師：須田喜代次氏(大妻女子大学名誉教授、森鷗外記念館(津和野町)館長)
会場：講座室 定員：50名 料金：無料 ※本展観覧券(半券可)が必要
申込締切：11月28日(金)必着

◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①**往復はがき** 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②**Eメール** 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

【ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外での使用はいたしません。】



2025年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1		1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11		2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18		9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25		16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29		28	29	30	31		
1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6
4	5	6	7	8	9	10		8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13
11	12	13	14	15	16	17		15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20
18	19	20	21	22	23	24		22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27
25	26	27	28	29	30	31									29	30	31			

特別展「鷗外、最後の4年間——帝室博物館総長兼図書頭・森林太郎」
10月11日(土)～2026年1月12日(月・祝)

コレクション展「鷗外の子どもたち(仮称)」
1月18日(日)～3月31日(火)予定

● 休館日 ○ カフェ休業日

開館情報は予告なく変更になる場合があります。
詳しくは当館までお問い合わせください。

編集後記

コレクション展「小説『舞姫』をよんでみよう！」(7月4日～9月30日開催)と同時期、日本近代文学館では企画展「教科書のなかの文学／教室のそと」の文学Ⅲ——森鷗外「舞姫」とその時代」が開催されました(6月28日～9月6日)。準備の過程で、奇しくも同時期に同じ作品を取り上げた展覧会を開催することが分かり、それぞれの展覧会チラシに情報を掲載することとなりました。両方の展覧会をご覧になる方もいらっしゃる、展示内容の違いを楽しんだり、作品への理解が深まったとおっしゃる方もおられました。「五館文学めぐり」スタンプラリーなどのように、これからも他の文学館と連携していきたいと思っています。

今年の「教員のための博物館」は7月28日～8月2日に開催されました。当館はこれまで通りのブース出展に加え、7月29日には国立科学博物館の講堂で行われたプログラム紹介に参加し、当館の特徴や沿革、団体見学方法などについてお話しさせていただきました。翌日当館で開催したコレクション展ギャラリートークに教員の方がいらっしゃるなど、当館を知っていただく機会となりました。当館では学校見学を受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。



●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・Bーぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)

休館日 毎月第4月・火曜日(祝日の場合は開館、例外あり)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

印刷物番号 D0125022